

# 化 学 生 物 学

## Chemistry

教授 広上 俊一 Shun-ichi Hirokami  
助教授 杉森 保 Tamotsu Sugimori  
教務職員 角田 広子 Hiroko Kakuda

### ◆ 研究概要

広上俊一, 角田広子: 計算化学的方法による分子構造と電子状態のエネルギーおよび反応の遷移状態の研究.

杉森 保: フェニル誘導体の導入を基盤とする新規機能性フタロシアニン錯体の合成.

### ◆ 原 著

- 1) Sugimori T., Nojima J., Ozawa T., Handa M., and Kasuga K.: Preparation and Properties of Tetra- and Octa-substituted Phthalocyanines with Cationic Trimethylaniliniumyl Groups. Chem. Lett., 33:1014-1015, 2004.

### ◆ 学会報告

- 1) 杉森 保, 野嶋 潤, 小澤智宏, 半田 真, 春日邦宣: 周辺に正電荷を持つフェニル誘導体を導入したフタロシアニン錯体の合成. 日本化学会第84春季年会, 2004, 3, 西宮.
- 2) 杉森 保, 山路正浩, 半田 真, 春日邦宣: 周辺にフェニル誘導体を導入した低対称フタロシアニン錯体の合成. 第54回錯体化学討論会, 2004, 9, 熊本.
- 3) 杉森 保, 片山美穂, 小楠竜也, 半田 真, 春日邦宣: フェニル誘導体で置換したフタロシアニン錯体への機能性側鎖の導入. 第54回錯体化学討論会, 2004, 9, 熊本.
- 4) 杉森 保, 野嶋 潤, 小澤智宏, 半田 真, 春日邦宣: フェニル誘導体を周辺置換基として持つ水溶性フタロシアニン錯体の合成と性質. 第54回錯体化学討論会, 2004, 9, 熊本.

## Biology

教授 尾崎 宏基 Hiroki S. Ozaki  
助教授 片桐 達雄 Tatsuo Katagiri  
教務職員 荒館 忠 Tadashi Aradate

### ◆ 研究概要

尾崎宏基: プロテオーム解析による遺伝性脳梁欠損マウスの原因遺伝子に関する分子生物学的研究.

片桐達雄: 自己/非自己認識の細胞生物学的機構および認識に伴う細胞内シグナル伝達機構の解析.

天然物由来成分の抗腫瘍・抗アレルギー効果の解析.

荒館 忠: 糖尿病治療薬の開発を目的とした天然生理活性物質の探索と応用に関する研究.

### ◆ 学会報告

- 1) 大島香菜, 中田美世子, 矢島由紀子, 村口 篤, 片桐達雄: RBL-2H3細胞のRaft画分におけるLyn分子のチロシンリン酸化と活性化機構解析. 第34回日本免疫学会総会・学術集会, 2004, 12, 札幌. Proceeding of the Japanese Society for Immunology [Abstracts Vol.34, 2004 ISSN 0919-1984 p306]
- 2) 中田美世子, 矢島由紀子, 大島香菜, 村口 篤, 片桐達雄: リョウブ(*Clethra barbinervis*)葉抽出液によるRBL-2H3の顆粒放出抑制とシグナル伝達に及ぼす機構の解析. 第34回日本免疫学会総会・学術集会, 2004, 12, 札幌. Proceeding of the Japanese Society for Immunology [Abstracts Vol.34, 2004 ISSN 0919-1984 p314]
- 3) Tatsuo Katagiri, Punya Shrivastava, Miyoko Nakada, Junsuke Tawara and Hidetaka Yakura: (2004.7.25), Lyn Activation and the Cell Fate are Determined by Dynamic Association of CD45 with Lipid Rafts in B Cells. 12th International Congress of Immunology. 18-23 July 2004, Montreal, Canada. Clinical and Investigative Medicine Journal Supplement Vol.27 No.4 p44B, August 2004.
- 4) 荒館 忠, 尾崎宏基: 酵母グルコサミン-6-リン酸合成酵素に対する阻害効果を指標とした植物抽出成分のスクリーニング: 糖尿病合併症に対する新たな予防・治療薬の開発を目指して, 第8回日本農芸化学会2004年度大会, 2004, 3, 広島. 日本農芸化学会2004年度(平成16年度)大会講演要旨集.